



高齢化社会は暗いイメージが先行しているが、豊かな社会へ変革するきっかけにもなる。医療費など社会保障費の負担増と捉えるだけでは、高齢化社会の負の側面を強調するばかりだ。

中堅・中小企業では65歳を超えても、引退してもうには惜しい人材を継続雇用する企業が少なくない。優れたスキルの活用が競争を生き抜くうえで必要とあれば、当然の動きと言える。

こうした企業の取り組みの一方で、高齢者がスキル、経験を社会に役立てるNPOの取り組みやボランティア活動が生まれている。ボランティア組織で長年蓄積

高齢化社会をポジティブに

経験とノウハウを蓄積し、しかも自由な時間を持つ人材が増えたことは過去になかった。さらに、先進国と新興国の役割分担が進み、日本が今後成長するうえで

知的スキル、熟練のスキルを蓄積した人材の活用が鍵となっている。高齢者が活躍できる場を創出していくことが豊かな社会への可能性を広げる。

経験豊富な高齢者が活躍できる場が徐々に増えている。105人にのぼる。

蓄積した経験生かす場を

水道の専門家は育成するのに長い時間が必要なのに、対し、現業職員はそれほどではない。そこで、災害時に彼らの力が頼りにされている。幸いなことに大規模な緊急出動は今のところない。普段の活動では、木曽川水系の水源である長野県木祖村の山林で下草刈りを毎年夏に行ったり、県営水道のPR活動などを展開している。今年夏の木祖村の下草刈りは7月11、12の両日実施し、18人が参加した。

愛水ボランティアはもとより、企業庁が災害時の復旧活動にOBの経験を生かそうと組織した。震災などに襲われると、現役職員だけでは人手が足りない。このため、非常時に登録したOBが駆けつけ、現役の職員を助けて復旧活動を行う。定期的に訓練や研修会を行っており、いざと言う時に役に立つ準備をしている。しかし、震災などの出番がそうあるものではない。

そこで、同名の愛水ボランティアを自主的に組織し、企業庁の取り組みとは別枠で水源の下草刈りなどのボランティア活動をしてきた。中心メンバーの一人は「参加者は水を仕事とし、水に関心を持ってきた。自分たちの経験が生かさればうれしい」と話し、別のメンバーは「水道は地味な仕事。長年続けて体で技術を覚える。パソコン世代よりも、われわれOBの方が役に立つことがある」と胸を張る。

こうした高齢者のボランティア活動には、交通費を含めて無報酬のところもある場合もある。いずれにせよ、長年蓄積してきた経験が社会に役立ち、本人だけでなく社会にも大きな恩恵がある。

経験豊富な高齢者は各分野に在る。人口の高齢化をポジティブに受けとめて、積極的な取り組みが求められている。